



パトランのユニフォームを着て、活動しています！

一人でも始められる 街を走ってパトロールする 「パトラン」の活動

新しいスタイルの
防犯ボランティア活動

「パトラン」とはパトロールランニングの略称で、街を走ってパトロールする、地域の安全を守る新しいスタイルの防犯ボランティア活動です。2013年1月に福岡県宗像市^{ひまかたし}で始まった活動は、現在全国44都道府県に2500名を超えるメンバーがおり、それぞれの地域で個人もしくはチームを組んで活動しています。

活動はシンプルです。メンバーが自分のライフスタイルに合わせて、できるときにできることを行う。犯罪抑止力に効果のある赤いユニフォームを着用して、自分の住む地域を中心にパトロールしています。また、子どもたちの安心・安全を守ることも力を入れています。全国で、何の罪もない子どもたちが狙われる事件が後を絶ちません。地域に温かい見守りの目をつけることで、未然に防ごうことができる事件や事故は多くあります。そこで私たちは夜間

のパトロールに加え、登下校の通学時間に合わせて児童の見守りも行っています。

犯罪が起きにくい快適な環境を維持することも重要と考えているので、治安が良くなるようにと、走りながらの清掃活動も行っています。私たちは街中に散らばるごみを「星屑」と呼んでいます。走ることに自信がなくても、歩きながらの星屑拾いなど、それぞれが無理なく続けられるスタイルで取り組んでいます。

自分のライフスタイルの中で、無理せずにできる

私がパトランを始めたのは2018年5月です。学生時代は陸上短距離に打ち込んでいましたが、走ることそのものが好きで、社会人になってからも各地のマラソン大会に出場するために夜間ランニングをしていました。すると、自分の住む街にも様々な危険があることに気付きました。

街灯の切れている箇所やそもそも街灯のない真つ暗な道、道路や歩道の陥没、夜間



会社員
千葉 英晃

〔ちば・ひであき〕1978年仙台市生まれ、仙台市在住。大学卒業後地方銀行に入行。刑事だった父の影響を受け、2018年より防犯パトロールのボランティア活動「パトラン」に取り組み。東京2020オリンピック聖火ランナー。

に女性がスマホを見ながら一人で歩く姿が大変危険だと感じていました。一市民としても、子を持つ親としても、自分たちの住む地域で犯罪などが起こらないように何かしなくてはと危機感を抱いていた折、新聞にパトランの記事を見つけ「これだ！」と直感。背中「Patrol Running」が犯罪の抑止や注意喚起にもなると考え、即、メンバー入りしました。

誰にやらされるわけでもなく自らの意志で、一人でも活動できることはとても魅力的です。自分で考え、自分の好きな時間に気の向くままに。コースも決められたものはなく、活動の舞台は無限にあります。自分のライフスタイルの中で活動できるので、仕事や家族への影響もありません。もちろん、パトランナーとして遵守すべきルールは設けていますが、縛りはなく自由に活動しています。

活動の報告はフェイスブックの非公開ページで行い、メンバーが報告に対して労いのコメントを入れ、この地域ではこういった



今夜も地元を見回りパトラン
 公簿の街灯が切れているのを発見
 即報告し、対応を依頼しました

実はこの 地区を夜間にパトランしていても、街灯切れは滅多に見掛けません
 というのも、そもそも街灯が少ない地域なのです

期を過ぎず地道に発見し続け、設置してもらえよう取り組んで参ります

これからも誇り高きスピードで、レッツパトラン

今夜の仙台市 地区、異常は即報告しました

今朝も見回りパトラン
 先週、仙台市では中学生が怪我を負う事件が発生しています

本当は毎朝児童の見守りをしてから出勤したい
 もどかしさを感じています

だからこそ地道にパトランを続けることで、この地域には俺がいるのだ、地域を守るパトランナーがいるのだと、示し続けます

これからも誇り高きパトランに心を燃やして
 レッツパトラン

今朝の仙台市 地区、異常なしです

日々の活動は、パトランのメンバー専用ページへ投稿して情報共有しています

サポートやイベントの企画運営など、さら

選んでいただいていることもあり、自らがパトランに取り組みつつ、他のメンバーへのサポートやイベントの企画運営など、さら

方法もあるというふうなアドバイスを送るなど、互いの情報を交換し合って活動の精度を高めています。メンバーがそれぞれの活動を認め称え合う。そこには否定や非難といったネガティブな発想は皆無です。

全国各地で活躍するメンバーが、Zoomなどの機能を使いオンラインでつながり、お互いの顔を見て声を聴き、同じ時間、同じ目的を持って活動することもあります。コロナ禍でもこういった工夫で、それぞれが高い意識を保ち活動し続けてきました。

私の活動スタイル

私は夜間の防犯パトロールをメインに捉えているので、平日の夜間に活動することが多いです。仕事を終えて帰宅したあと、22時までに走れる状態になっていけば、7〜8キロ程度、時間にして30分〜40分、住宅街の中を見回りするようにしています。平日は2〜3日。土日や祝日などは朝夕の2回活動をすることもあります。これまで1000回以上パトランをしてきましたが、バイクによる物損事故や帰宅中の学生への当て逃げ現場に遭遇したり、空き家の窓ガラスが割られているのを見つけて警察対応するケースもありました。

なる周知にも取り組んでいます。私が住む宮城県においてはパトランの認知度が他の地域に比べてまだまだ低いので、まずはこの活動を知ってもらうこと。さらには活動への理解を深めてもらうことには重きを置いています。しかし、思うようにいかないのが現状です。

仕事と活動の両立について言えば、私たちはあくまでも自分のライフスタイルの中で、できるときにできることを行う、というのを徹底しています。ですので、私も仕事で遅くなればその日は活動を休みます。

メンパーを増やしていきたい気持ちもありますが、基本的には勧誘的なことは行っていません。勧誘に力を入れすぎると、せっかくメンバーになってもこちらから声かけしなければ活動せずに、続かないというケースがあります。あくまでも自分の意志で活動することに本質があると思っています。

私たちが抱える問題として、防犯活動全体における高齢化や地域コミュニティの衰退などの影響を受け、防犯ボランティア活動の担い手減少があります。地域全体を鳥の目で俯瞰し、虫の目で犯罪や事故の原因となりうる芽を摘む新たな地域防犯の担い手をつくることも必要不可欠です。全国にもっともつとパトランナーが増え、それぞれが地域をパトロールしてどんな小さな犯罪の芽でも摘んでいけば、世の中の安心・安全へと確実に繋がっていくものと思います。

私たちが抱える問題として、防犯活動全体における高齢化や地域コミュニティの衰退などの影響を受け、防犯ボランティア活動の担い手減少があります。地域全体を鳥の目で俯瞰し、虫の目で犯罪や事故の原因となりうる芽を摘む新たな地域防犯の担い手をつくることも必要不可欠です。全国にもっともつとパトランナーが増え、それぞれが地域をパトロールしてどんな小さな犯罪の芽でも摘んでいけば、世の中の安心・安全へと確実に繋がっていくものと思います。

「犯罪なき世の中の実現」という目標に向かって

たつて行き詰まることもあります。そんなときは、構成を一から検討し直し、考えや意見を纏めるために走ることもあります。走ることで脳内が活発になって物事の見方が変わり、新たなアイデアが浮かんで行き詰まった状況を打開できた、ということが何度もあります。パトランがあるから仕事があまく回せる。仕事にとつてパトランは欠かせない大切なものとして捉えています。

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い

警察庁によると、2021年の刑法犯認知件数は56万8104件で、最も件数が多い



「星屑拾い」と名付けたゴミ拾いのイベントで出会った仲間たちと。走りながらのゴミ拾いは片方の手にゴミ袋、もう片方の手にトングを持って行きます

かった2002年より80%減少しました。街に人の目をつくることによる犯罪抑止や犯罪が起きにくい環境づくりなど、私たちが進めてきたことが着実に効果となった現れではないでしょうか。パトランの認知度がまだまだ低いまま、継続こそがパトランを大きく育てるための最も大切な手段であると考えています。ゴールなき目標に向かって、走り続けます。

パトランだからこそ感じる 「やりがい」

街に潜む危険……。街灯切れや、道路や歩道の陥没については、見つけ次第、行政に連絡し対応を依頼します。後日該当箇所が修繕されていることを確認できると、自分の走りが直接地域に貢献できていると思えます。事件が起きないようにパトロールしているのも、何事もなく走り終える、「街に異常が何も無いこと」を確認できたこと、それだけで役に立てたと思えるのです。ラニング一つとっても、意識と目的を変えるだけでこんなにも魅力溢れる行動なのか、と感動すら覚えます。

見えないところに潜んでいるかもしれない不審者に向けて、「この街にはパトランナーがいる。我々パトランナーが走っている限り犯罪など起こさせない」と存在を誇示する気持ちを持って活動しています。実際には不審者どころか、殆ど誰も見えないことのほうが多いのですが、誇示している

気持ちだけで自己肯定でき、充足感に満たされます。

「ただ」走るだけでなく防犯パトロールを目的にすることで、自分の走りが直接地域のためになっていると感じるのは、大きなやりがいです。地域の防犯を目的に、走りながらゴミ拾い活動も行う姿は確実に地域の方々の目にも留まっているようで、折に触れて「走っているのを見たよ」とか「雨の日でもゴミ拾いしながら走っているのを見て驚いた。いつもありがとう」などと声をかけていただけるようになりました。

小学校近くの通学路にも関わらずガードレールの設置されていない危険な箇所に気づき、警察、行政、学校へ何度も働きかけた結果、新たに設置されたときは胸が熱くなりました。犯罪を防ぐパトロールにとどまらず、危険や不安から地域を守る活動であると実感できるのが、パトランだからこそ感じることのできるやりがいです。

同じ志をもった 全国の仲間は宝物

2018年に始めたパトランですが、宮城県では私が最初だったこともあり、自分一人からのスタートでした。「仲間を増やして一緒にこの活動を広めたい！地域の安心・安全を守っていききたい！」という思いは活動をすればするほど大きく膨らみ、日々のパトロールに加えマラソン大会でパトランの幟旗を掲げながら走ったり、警察や行政に

プレゼンするなどしてきました。いまではパトランの輪が広がり、宮城県内でも40名を超えるパトランナーが活躍しています。

そうしたパトランの活動を行うようになってからは、「人生において本当に大切なものは何なのか?」「本質とは何なのか?」を改めて考えるようになり、自身の行動を律し、誇り高く生きることによってベクトルが向くきっかけとなりました。パトランに出会って人生が変わったと思えます。

また、家族にとっても良い影響があり、活き活きと走り出かける私の姿を見ていた息子も興味を持ち、一緒にパトランするようになりました。するとその活動を評価していただき、東京2020オリンピックの聖火ランナーに二人とも選出されるという、夢のような機会にも恵まれました。

そして、志を一つにする仲間が全国にできたことは宝物です。各地で開催されるマラソン大会へ一緒に参加したり、自分たちで星屑拾いのイベントを企画して仲間を募り、同じ志のもと活動する。年齢や立場、職業も異なる全国の仲間と会い、それぞれの地域での活動を報告し合い、防犯への思いを共有したりできる。なんて豊かなのだろうと思えます。

パトラン活動そのものはもちろん、志を一つにする仲間は誇り高き存在です。これからまた、どんな素敵な仲間と新しく出会えるのか、本当に楽しみでワクワクしています。